

平成時代

富士凡

世界
遺産

中

「穴場」が一変 参拝客増

た」と振り返る。参拝客をもてなそうと、赤池さんら地元の住民はご朱印帳の販売を始めた。今では団体客を乗せた大型バスが見られた」と振り返る。

帳の記帳やオリジナルのお守りの販売を始めた。今では団体客を乗せた大型バスが見られた」と振り返る。

れるようになり、昨年度の参拝客は約8300人と13年度の3倍を超えた。

富士宮市には、

世界遺産の構成資産のうち、山宮神社を含む五つがある（富士山域を除く）。

構成資産を巡る巡回バス「強力くん」が運行されるようになり、昨年12月には県富士山世界遺産センターがオープンした。

もっとも、本宮以外の構成資産の認知度は決して高いとはいえない。帝国データバンクは3月、静岡・山梨両県以外からの来訪者に、構成資産の名前を挙げて世界遺産だと知っているかを聞いた。

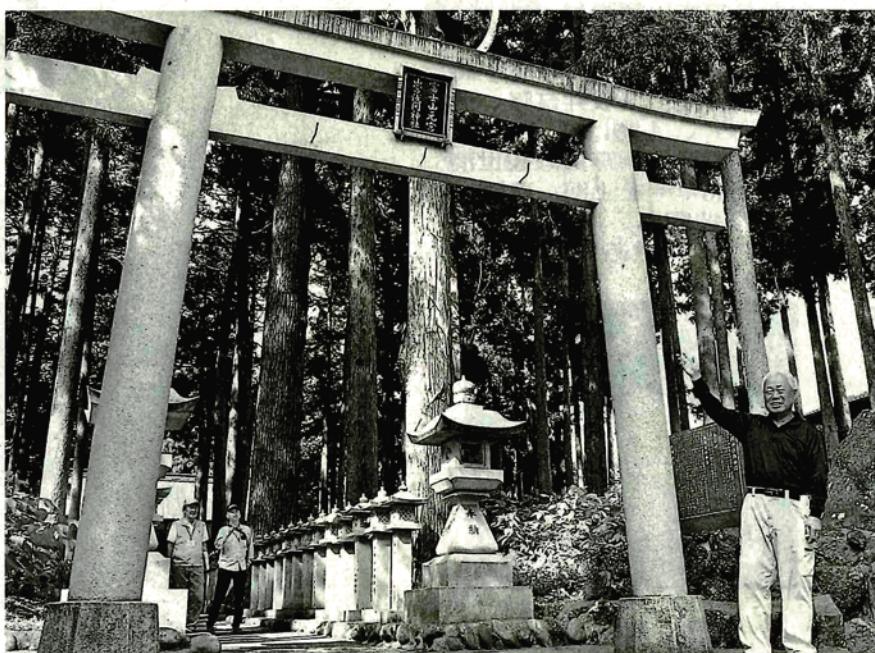
本宮を世界遺産と認識しているとの回答は40%だったが、山宮神社は12・1%、村山浅間神社（同市村山）は11・7%、富士山を信仰する「富士講」の聖地「人穴富士講遺跡」（同市人穴）は7・3%だつ

た。参拝客を案内するための態勢作りも遅れている。山宮神社でご朱印帳の記帳を行っているのは、地元の60歳代と80歳代の住民2人だ。赤池さんは「次の担い手をどう確保するかが課題」と話す。村山神社や人穴富士講も人手が足りず、案内所が開いているのは土日祝日のみで、ガイドもいない。

地元は行政の支援を求める。人穴浅間神社氏子代表の松永義信さん（67）は「高齢化と人口減少が進むなか、我々だけでは週末の対応が精いっぱい」と話す。とはいえ、市も財政の余裕がなく、市の負担で平日にガイドを常駐させることには及び腰だ。

世界文化遺産「富士山」の構成資産の一つ、山宮浅間神社（富士宮市山宮）。富士山の噴火を治めるために建てられたとされ、富士山信仰の中心・本宮浅間大社（同市宮町）の前身と伝えられる。由緒はあっても、以前、市街地から遠い山宮神社を訪れる人は少なく、富士山を望む遙拝所へと続く階段は、参拝者が転んでしまうほどでこぼこだった。

2013年の世界遺産登録で、状況は一変した。境内の入り口近くにトイレや案内所、駐車場が設けられ、整備された階段には手すりもつけられた。氏子総代会会長の赤池健次さん（68）は「地元にすごい神社があると改めて感じ



山宮浅間神社の由来を説明する赤池さん（富士宮市で）

構成資産 受け入れ態勢に課題も

2013年の世界遺産登録で、状況は一変した。境内の入り口近くにトイレや案内所、駐車場が設けられ、整備された階段には手すりもつけられた。氏子総代会会長の赤池健次さん（68）は「地元にすごい神社があると改めて感じ

本宮を世界遺産と認識しているとの回答は40%だったが、山宮神社は12・1%、村山浅間神社（同市村山）は11・7%、富士山を信仰する「富士講」の聖地「人穴富士講遺跡」（同市人穴）は7・3%だつ

た。参拝客を案内するための態勢作りも遅れている。山宮神社でご朱印帳の記帳を行っているのは、地元の60歳代と80歳代の住民2人だ。赤池さんは「次の担い手をどう確保するかが課題」と話す。村山神社や人穴富士講も人手が足りず、案内所が開いているのは土日祝日のみで、ガイドもいない。

地元は行政の支援を求める。人穴浅間神社氏子代表の松永義信さん（67）は「高齢化と人口減少が進むなか、我々だけでは週末の対応が精いっぱい」と話す。とはいえ、市も財政の余裕がなく、市の負担で平日にガイドを常駐させることには及び腰だ。

山宮神社をツアーディレクターとして訪れた女性（58）は、「神社と富士山とのつながりなどいろいろと知りたいのに、教えてくれる人がいなければ自分でインターネットで調べるしかないと漏らした。こうした不満に応えられなければ、参拝客の足は遠のきかねない。官民の連携が問われる。